

# サポセン mail No.1 95. 2020.5.10発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター  
千葉市緑区誉田町 2-21-684-101 TEL&FAX 043-377-8490  
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp  
URL:http://saposen.konjiki.jp/

## 思いきり遊びきた実感をも！

2月23日（日）新型コロナウイルスの感染が広がり始めたこの日、千葉市からの通達もあり全員自宅での検温をしてからの参加をお願いしました。当日は体調が心配される子



はいなかったで全員が元気に集まりました。アフタフバーバンからはりっちゃん（佐藤津子さん）ときょんちゃん（平川恭子さん）が来てくれました。1か月ほど前にりっちゃんと会場下見と打ち合わせをしたときに話をし、（いつも打ち合わせは3時間以上たわいのないことも含めていっぱい話をするのですが）「思いきり心も体も

開放して遊びきた実感」を持って帰ってもらおうと決めました。木村さんお母さん、徳永さんご夫妻、長菅さんお母さんに大人スタッフとしてお手伝いをしていただきました。

はじめは恒例の誕生日順に大急ぎに丸い輪になって並ぶ遊び。順番に自分の自己紹介をしていきます。毎月会っているメンバーですが、なんだか恥じらう姿がかわいらしい！手の大きさ順に並んだあとは「なんでもバスケット」ジャカジャカジャカと



いう掛け声でみるみる子どもの気持ちが高揚していき、どんどん自分が言いたい気持ちになっていくのがわかります。一部の子どもがた

くさん発言するのではなく、どの子も「言いたい！」という気持ちが溢れていて、だんだんみんなの顔が笑顔でいっぱいになっていきました。





次に飲み物は何が好きか言い合ってグループに分かれました。一人ずつ好きな飲み物を紹介するので、意外なものが好きだったり、また新しい発見です。グループごとになって簡単なスゴロクをやってみました。

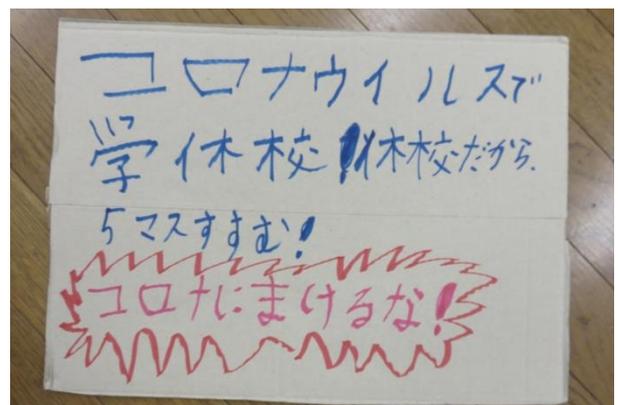


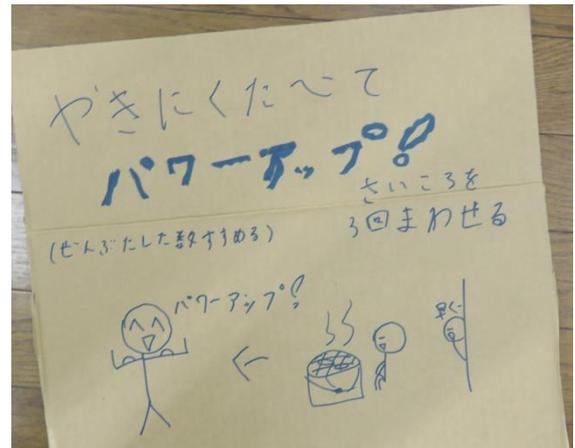
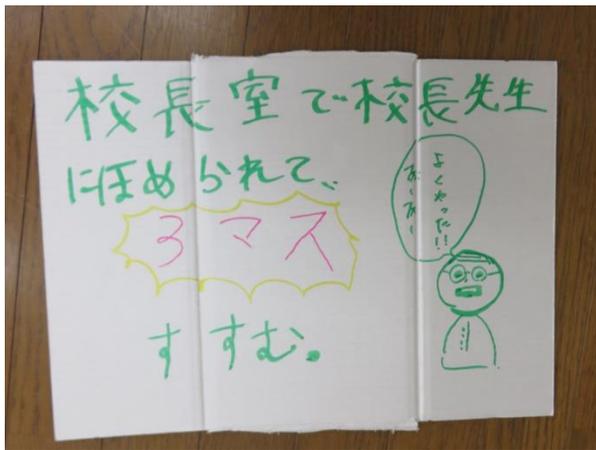
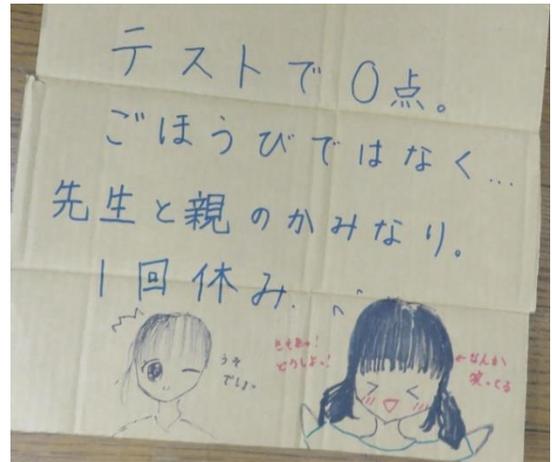
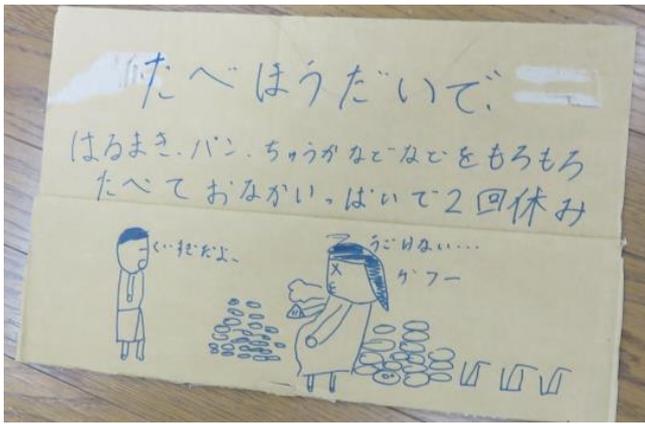
全員がスゴロクを理解したところで今度はみんなでスゴロクを作ってみます。どんなスゴロクにするか、ゴールは何にするか話し合うと、みんなからいろんな意見が出てきて、書いていった黒板がいっぱいになっていきます。



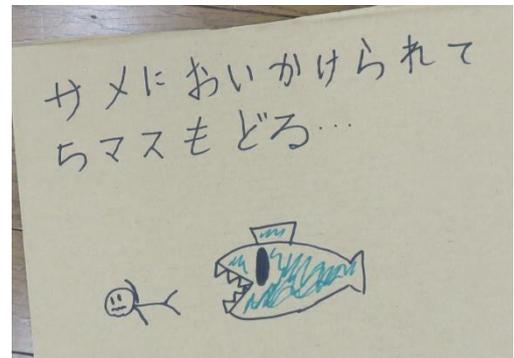
最近の子どもはあまり自分の意見を言わないし、内面を見せてくれないなんて心配していた私はびっくり。子どもたちは表現したいことがいっぱいあるのですね。

さっそくスゴロク作りがスタート。準備した段ボール50枚があっという間にみんなのアイデアでいっぱいになっていきます。





前日、りっちゃんが作った四角と三角の大きなサイコロをグループごとに思い切り投げてスゴロクを開始です。「〇〇マスすすむ」が出ると飛びあがって喜んだり、「〇回やすむ」や「〇〇マスもどる」が出ると「あ〜！」と倒れこんだり、自治会館のホールは熱気であふれていました。最初にゴールしたグループにはご褒美として何かしてほしいことある？と聞くと「みんなにパプリカを踊ってほしい。」という意見がでました。でも一番踊りたかったのは自分たちだったみたい。思いきり遊びきった楽しい時間でした。



(記 安藤)



緑区子どもサポートセンターの青年 けん君

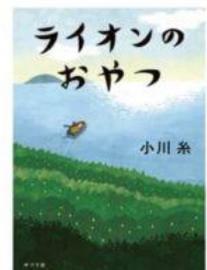
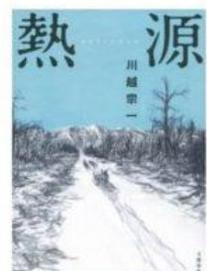
2020年本屋大賞にノミネートされました👏

通称（けん）君は、以前サポートセンターのキャンプの指導員などで活躍され、今でもみんなのあこがれの青年です。

この度の作品は、5つの短編に収められていて、いずれも冒頭から驚きの連続の連続のミステリーに。全編、多様な魅力のつまった1冊です。皆さんもぜひ読んでケン君を応援しましょう。



# 2020年ノミネート作決定! 本屋大賞



むかしむかしあるところに、  
死体がありました

青柳 碧人 (著)